

〔特集〕

THE FLOWERS

ザ・フラワーズ

世界中で活躍した女性の努力で
女性の地位は大きく改善傾向に

津田梅子をはじめ、圧倒的に男性優位の明治期に活躍した下田歌子、平塚らいてう、長谷川時雨らの活動により、日本における男女平等の実現に向けた歴史は幕開け。女性への高等教育や女性の社会進出が普及し始め、女性の地位向上に向けた取り組みが活発化していきます。彼女らのような志高き女性たちの活動・功績のおかげで、戦後には「男女平等」を基本原則とする新憲法が施行。日本で初めて女性の参政権が認められた1945年の普通選挙法改正を皮切りに、1985年には「男女雇用機会均等法」、1999年には「男女共同参画社会基本法」、2016年には「女性活躍推進法」が施行されるなど、百年程前と比べて女性の地位は大きく改善。近年では産業やスポーツ、地域など、あらゆる場で、男性と同等に女性の活躍が目立つようになってきました。それでは「私たちが暮らす福智町は？」というと、なんと新憲法が制定される前に「男女共同参画社会」が実現していたといいます。

毎年3月8日は女性の生き方を考える「国際女性DAY」。

その制定から2025年で50年の節目を迎えます。日本では昨年、20年ぶりに紙幣が刷新。

新しい顔として、女性の地位向上に貢献した「津田梅子」が選ばれました。

彼女の活躍から百年以上の時を経て、ジェンダー平等の意識の普及から実装のフェーズに移ろうとしている現在。私たちが暮らす福智町で輝く女性たちを紹介しながら、

性別に関係なく輝ける社会を実現するために必要なことについて考えます――

女性が昔から活躍した筑豊地域
今に継承される力強いスピリット

炭鉱の町として栄えた、福智町を含む筑豊。最盛期には、男性が掘り出した石炭を運搬する、「後山」という仕事を女性が担当しており、当時としては珍しく、ヤマで働く女性たちは経済的・精神的にも自立していたといえます。常に危険がつきまとう命がけのヤマの仕事。男性と同様に女性も坑夫として厳しい労働を耐え抜いてきた歴史をもつ福智町では、力強いスピリットを引き継ぐ女性たちが躍進し、大きな輝きを放っています。

↓ 女坑夫の作業風景も描いた山本作兵衛翁作の「天井打診」



© Yamamoto Family

COLUMN

毎年3月8日は「国際女性デー」

ニューヨークで婦人参政権を求めた1904年のデモが起源となり、1975年に国連が3月8日を「国際女性デー (International Women's Day)」に制定しました。女性の社会的、経済的、文化的、政治的な成果を称える「国際女性デー」は、ジェンダー平等の推進や女性の権利を守るための行動を再確認するため、世界中で啓発活動やイベントが行われます。愛や幸福、感謝を意味し、春に実を咲かせる「ミモザ」。国際女性デーのシンボルとして世界中で認知されています。



〔出典〕近代日本人の肖像

← 女子高等教育の先駆者となった津田梅子。

日本紙幣の新しい五千円として女性活躍の礎築いた偉人が選出
昨年7月、20年ぶりに刷新された日本の紙幣。お札のデザインには、日本の近代化に貢献した3人が選ばれました。大河ドラマの主人公にもなった実業家「渋沢栄一」、感染症医学の発展に大きく貢献した研究者・医師「北里柴三郎」。そして、名だたる偉人に並んで選出されたのは、誰しも1度は学校で学んだことがあるであろう、女子英学塾（現在の「津田塾大学」）を創立した「津田梅子」。私財を投げ打ち女性のための学校を作るなど「男性と協同して対等に力を発揮できる女性の育成」に生涯を捧げ、女性の地位向上に大きく貢献した1人です。